

双胎妊娠における sFlt-1/PlGF 比の妊娠高血圧腎症の発症予測能に関する検討

1. 研究の対象

2015年1月1日～2026年3月31日の間に山梨県立中央病院産科にて分娩された妊婦

2. 研究目的・方法

研究実施期間：研究機関の長の許可日～2026年3月30日

妊娠高血圧腎症(preeclampsia: PE)を示唆する症状が表れた単胎妊婦において、血管新生因子阻害物質である soluble fms-like tyrosine kinase 1 (sFlt-1) 及び血管新生因子 placental growth factor (PlGF) より算出した sFlt1/PlGF 比が、短期的な PE 発症予測に役立つことが近年報告された(1)。双胎妊婦の PE 発症率は単胎妊婦の約3倍とされるが、双胎妊娠における sFlt1/PlGF 比の PE 予測能についてはほとんど報告もなく一般的な見解がない。2015年度より当院では、単胎だけではなく双胎においても周産期有害事象の発症予測のために sFlt1/PlGF 比を算出するために、sFlt1 と PlGF の採血が行えるようになっている。これらを踏まえ、研究対象者のカルテ情報を用いて双胎妊娠における sFlt1/PlGF 比が PE や周産期有害事象の発症予測に有用か否かを検討する。

3. 研究に用いる情報の種類

- ① 患者基本情報；年齢、性別、診断名、妊娠方法、分娩回数、早産既往、妊娠糖尿病と妊娠高血圧症候群の有無、体格、家族歴、切迫早産の有無とその治療方法
- ② 血液検査・超音波データ
- ③ 分娩時情報；出生体重、児の性別、臍帯血 pH、Ap スコア、分娩時出血量、分娩後から24時間経過するまでの出血量、子宮収縮剤の使用量、補液量など
- ④ 母体の心エコー・下肢エコー・胸部レントゲン所見

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。申し出をいただいた時点で、既に学会や論文として発表されている場合は取り消しができないこともあります。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

山梨県立中央病院 研究責任者：産科 篠原諭史

〒400-8506 山梨県甲府市富士見一丁目1番1号 TEL：055-253-7111（代表）